

特別座談会

広島女学院で 学ぶということ

人として、一人の女性として
心も体も大きく成長する中高生時代。
未来の土台を築く大切な6年間の中では
「女子」「中高一貫」「キリスト教」
という三つの柱が果たす役割とは。

広島女学院中学高等学校
HIROSHIMA JOGAKUIN JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

※座談会開催時の学年です。



広島女学院高等学校 教頭
高見 知伸

広島女学院 院長
広島女学院大学 学長
湊 晶子

高校生代表
(高1)^{*}

鬼頭 伶実

中学生代表
(中3)^{*}

石野 奈都子

なぜ女子教育なのか

—思春期に女子教育を受ける意義は
どこにあると考えていますか

湊 女子だけですと、たとえば力仕事
など男子がいるといつ頼りがちな作業
なども全て自分たちでこなさなければ
ならず、自立心が養われます。中学か
ら高校までは心も体も大きく変わり
ます。その大切な期間に女子教育を受
け自立心を養うことは、人生における
大きな土台づくりにおいてとても有意
義だと思っています。

—日常の指導において女子教育の 重要性を実感することはありますか

高見 私は本校の卒業生でもあるので
すが、入学以来、あらゆる選択の場面に
おいて自分で決断してきました。13歳
の時からそれが自分にとって普通のこ
とでしたので、あらためて女子教育の重
要性を意識しながら指導するというこ
とはあまりありません。「女子だから」
こととさらには強調するのではなく、日々
の生活のなかで無意識のうちに感じて
いくようになるものなのだと思います。

—昨今共学化の傾向が見られます
が女子校として思うことはありますか
湊 中高も大学も確かに共学化の傾
向が強まっていますが、私は最後の一校
になつても、女子校でありたいと考えて



高見 知伸

広島女学院高等学校 教頭

—中高一貫校の特徴は何ですか

高見 いろんな機会が準備されていることででしょうか。この機会は生徒が自らつくり出すこともあります。单なる

opportunity(機会)やchance(偶然)ではなく「考える機会」。1日の始まりである礼拝もその二環です。その二つが何十年経ても自分の中に残っているんですね。私も自分が生徒だった時にキリスト教強調週間で聞いた話を覚えていました。自分になかった価値観に衝撃を受け、新たな価値観が生まれたから、記憶に残っているのでしょうか。その時に生まれたものが今も自分のベースとなっています。

なぜキリスト教教育などどのような教育を言うのでしょうか

湊 グローバル社会といわれますが、実はキリスト教の概念を知らなければグローバルにはなれないのです。なぜかといふと西暦というものはキリストの誕生から数えているからです。日本でも使われる西暦はキリスト教の概念であり、西欧社会ではこの概念の上に歴史も文化

しました。6年間、友人としつかり縛を強めながら進級できる女子校であることは誇りです。

—今後、学んでみたいことはありますか

挑戦してみたいことはありますか

石野 中学で学んだ以上に、高校で新しいことを学びたいと思っています。あとは6年間を共に過ごした友人と、大学に進学してもずっと仲良しでいたいですね。6年間一貫教育で本当に良かったと感じています。

鬼頭 6年間のうち、もう半分が過ぎたんだなと思うと、月日の流れがとても速く感じます。中学の3年間でも自分の変化を実感しましたが、高校ではさらに生徒が主体になって活動する場が増えました。この1年間だけでも、世界のさまざまな問題について自分で考えてきたので、今度は考え方を実行に移せるように頑張りました

いとthoughts。

心にぶれなし軸を立て 自立した女性に

どけなく可愛らしい子たちが、6年後、高校の卒業式では堂々と立派な女性に。そのかけがえのない日々を一貫した教育理念と環境の下で過ごせることは非常に幸せなことではないでしょうか。

高見 6年間で、子ども同士の関係性から大人の関係性に変化していくますが、生徒自身も高校の後半あたりになると、そういうことに気づきます。人間的に未熟な頃は些細なことでケンカもあります。それが3年で途切れてしまえば相手を気に入らないまま。でもそれが3年で途切れてしまつて見直すといった発見があります。

湊 広島女学院に赴任する時、中学生から入学する中高一貫校と聞いて安心

しました。6年間、友人としつかり縛を強めながら進級できる女子校であることは誇りです。

—今後、学んでみたいことはありますか

挑戦してみたいことはありますか

石野 中学で学んだ以上に、高校で新しいことを学びたいと思っています。あとは6年間を共に過ごした友人と、大学に進学してもずっと仲良しでいたいですね。6年間一貫教育で本当に良かったと感じています。

鬼頭 6年間のうち、もう半分が過ぎたんだなと思うと、月日の流れがとても速く感じます。中学の3年間でも自分の変化を実感しましたが、高校ではさらに生徒が主体になって活動する場が増えました。この1年間だけでも、世界のさまざまな問題について自分で考えてきたので、今度は考え方を実行に移せるように頑張りました

いとthoughts。

高見 6年間で、子ども同士の関係性から大人の関係性に変化していくますが、生徒自身も高校の後半あたりになると、そういうことに気づきます。人間的に未熟な頃は些細なことでケンカもあります。それが3年で途切れてしまえば相手を気に入らないまま。でもそれが3年で途切れてしまつて見直すといった発見があります。

湊 広島女学院に赴任する時、中学生から入学する中高一貫校と聞いて安心

しました。6年間、友人としつかり縛を強めながら進級できる女子校であることは誇りです。

石野 中学で学んだ以上に、高校で新しいことを学びたいと思っています。あとは6年間を共に過ごした友人と、大学に進学してもずっと仲良しでいたいですね。6年間一貫教育で本当に良かったと感じています。

鬼頭 6年間のうち、もう半分が過ぎたんだなと思うと、月日の流れがとても速く感じます。中学の3年間でも自分の変化を実感しましたが、高校ではさらに生徒が主体になって活動する場が増えました。この1年間だけでも、世界のさまざまな問題について自分で考えてきたので、今度は考え方を実行に移せるように頑張りました

いとthoughts。

高見 6年間で、子ども同士の関係性から大人の関係性に変化していくますが、生徒自身も高校の後半あたりになると、そういうことに気づきます。人間的に未熟な頃は些細なことでケンカもあります。それが3年で途切れてしまえば相手を気に入らないまま。でもそれが3年で途切れてしまつて見直すといった発見があります。

湊 広島女学院に赴任する時、中学生から入学する中高一貫校と聞いて安心

しました。6年間、友人としつかり縛を強めながら進級できる女子校であることは誇りです。

石野 中学で学んだ以上に、高校で新しいことを学びたいと思っています。あとは6年間を共に過ごした友人と、大学に進学してもずっと仲良しでいたいですね。6年間一貫教育で本当に良かったと感じています。

鬼頭 6年間のうち、もう半分が過ぎたんだなと思うと、月日の流れがとても速く感じます。中学の3年間でも自分の変化を実感しましたが、高校ではさらに生徒が主体になって活動する場が増えました。この1年間だけでも、世界のさまざまな問題について自分で考えてきたので、今度は考え方を実行に移せるように頑張りました

いとthoughts。

ことを学ぶうちに価値観が変わり視野が広がって、海外ボランティア活動や留学を経験したいという夢が見つかりました。広い視野を持つ友人に囲まれているので、その影響も大きいと思います。

石野 私も自ら挑戦してみたいと思ふようになりました。以前は留学に興味はありませんでしたが、友人たちから刺激を受けて、自分も経験したいと思うようになりました。

高見 興味はありませんでしたが、友人たちから刺激を受けて、自分も経験したいと思うようになりました。



湊 晶子

宮城県生まれ。東京女子大学卒業後、フルブライト奨学生としてホイートン大学大学院へ。東京基督教大学、東京女子大学教授を経て2002年に東京女子大学長に。2014年より本学院長・学長。2010年「瑞宝中綬章」受章。



▲ 每朝の礼拝

聖書の言葉を通して、自分自身と向き合い
心の成長や生き方を考える大切な時間。

も築かれています。広島女学院では決してクリスチヤンになりなさいという教育はしません。キリスト教の考え方を理解してほしい、知つてほしいのです。その考え方を基に育みたいのが、ぶれない自分。人間という生き物は人の間で物事を考えますが、そうすると必ずぶれてしまい、決められなくなります。集団的意識構造が強まるとき、みんなと一緒になら怖くないと、みんな同じ方向を向いてしまいます。」のよう、「If you say so, I think ...」では国際社会で負けてしまいますが、「I think ...」で議論しなければならないのですが、それは自信を持つこと、ぶれない軸を立てるからです。キリスト教教育とは、その軸を聖書から学ぶこと。自分の中にぶれない軸を立てた時、人は誰に何と言われても「それは違う。私はこう思います」と言えるのです。つまり「人格」を築くことです。人格という言葉はキリスト教教育から生

まれた言葉で、かつて日本語にはありませんでした。英語ではcharacterとかpersonalityと訳されます。人格とは「person herself」ということです。ですから人格教育を中高教育の原点として重視しているのです。

鬼頭

私は入学するまでキリスト教に触れる機会はなくて、礼拝も初めての経験でした。最初は何を聞いているのかよく分かりませんでしたが、最近は自分の中に響くのを感じ、得られるものがたくさんあります。

石野

最初は宗教的なイメージに少し抵抗がありましたが、毎日の礼拝で人生の生き方を教えてくれているのだと思えるようになりました。



なぜ広島女学院なのか

—広島女学院の魅力は何でしょう

石野　ここで学ぶことで、自立した女性にもなれるし、グローバルで活躍できる女性にもなれると思います。

湊　聖書の教えに則って生きるということは、積極的に生きるということ。

鬼頭　ジティブな人間をつくります。たとえば福音書の中には「何でも人の喜ぶことをしなさい」と書いてあります。儒教では「人の迷惑になることをしてはならない」と否定形で教えます。キリスト教の文化がベースとなっている西欧では、子どもを叱る時も「～してはいけません」ではなく「～しなさい」と非常

にポジティブです。「喜ぶことをしなさい」と教えるのです。この学校の雰囲気がなぜこんなに明るいのか。その理由は教員がポジティブシンキングで、子どもたちをポジティブに育てるからだと思っています。



保護者の皆さまへ

—メッセージをお願いします

湊　女性の一生を決める土台づくりの期間は非常に大事です。心も体も大きく成長する中高の期間。この6年間をどこでどのように過ごすかが、女性の人生において非常に重要です。ぶれない女性をつくる、次世代を育てる母としての土台をつくる。その教育にふさわしい場が広島女学院中学高等学校であると、私は信じています。

高見　キリスト教の教えに基づいて、人との関わり、倫理観、生きる哲学、命とは、愛とは、そういうことを生徒と教員が全力で一緒に考える学校で

す。当たり前のことですが、その当たり前をきちんと実践できる教育は、私が生徒だった頃と変わっていません。そしてこれからも変えてはいけないと思っています。時代に合わせて良い方向に変化する面もありながら、変えてはいけない面は130年以上守り続けている学校です。卒業生が頻繁に遊びに来てくれるのですが「変わらないね」と言ってもらえるとうれしいですね。

湊

広島県では貴重なキリスト教主義の学校です。私はここに赴任して、この学校を決してなくしてはならないという大きな責任を感じています。大切な広島女学院の中高大を永遠に残したい。広島女学院が広島県にあることがどれだけ重要なのかを多くの人々に伝えていきたいと思っています。